



五四九号
特別附録

写真の中で、橙色の枠が付いているものは、植林当時の様子を撮影したものです



湖北省黄崗市武穴 第三期植林地 2005年3月実施



二〇〇五年三月植林当時



2005年3月植林当時

寒さに耐えながら、竹を植えた。心もとない思いを拭うことはできず、活着を祈って別れを告げた。
12年後の夏再び現地へ。
何もなかった赤土の山は、緑の山々に変身していた。
植林した竹はこの地では根付かず、山の裏側に移植された。今では地元の特産品「竹工藝」の原料を、
あるいは美味しい筍を提供する竹林として地元の人々に大切にされている。
赤土の山には、雑植が向いているとの判断から、様々な広葉樹が植えられた。
12年の歳月が、いかに木々を育て、大地を潤したか、大きな石の記念碑は見つめ続けていた。

湖北省秭帰県 三峡ダム第一期

2006年3月実施

長江(揚子江)にダムを造るという壮大な計画が始まった。そのダムの近く、将来市民の為の公園になる場所、(ダムの底に沈む運命だった、地元の特徴ある建物も移築されている)そこが第一期の現場だった。巨大なダムは徐々にその姿を見せ始めてはいるが、水量はわずか。公園になると言われても、こんな何もないところに、人々が集うのだろうかと思われた当時。

2017年、ダムは満々と水を湛え、中国の大偉人として讃えられている屈原の廟(資料館)も、立派に立て替えられ多くの人が訪れている。植樹した木々は、木陰をつくり、根は大地をしっかりと掴んでいた。



湖北省秭帰県 三峡ダム第六期

2010年12月実施



2010年12月植林当時

第一期から第六期まで、六年かけて続けてきた三峡ダムの植林も最後となった。現地の経済発展のため、主に柑橘類を植えてきたが、確かにこの地の柑橘類は美味しい。第二期、第四期に負けず劣らず、急こう配の植林地に雨の中オレンジの木と崖の保水の為に広葉樹を植えた。煌めく太陽の下、収穫できるまでに育ったオレンジの木が、深い緑の葉を輝かせている。眼下の長江も深々と水を湛え、豊かな実りを約束してくれている。植林当時と、あまりの様変わりに、同じ角度から写真を撮っても、直ぐにはそれとわからない程だ。



湖北省秭帰県 三峡ダム第五期

2009年12月実施

第五期の現場は、広い。第四期とも隣接しており、辺り一帯を緑の果樹園としてつなぐ要の役割を果たしている。急こう配を避けて設置された記念碑は、しっかりと周りの山々を見渡していた。果実を収穫するための樹木と、山の保水力を高めるための常緑広葉樹等の木々が、一つになって見事な景色を作り上げている。近くには寺院もあり、人民政府の招待所もあるので、人々の目に留まることも多い。

石碑に刻まれた「日本友愛青年協会」の名は、何時までもこの地に残り、中国と日本の友好の懸け橋の役割を果たしていく事だろう。



2009年12月植林当時

